

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

第 20 週より、週報の様式が変更になりました

2017（平成 29）年 第 21 週（5 月 22 日～5 月 28 日）

今週のコメント：大阪府では、第 19 週にインフルエンザ非流行期に入りました

～A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎～定点当たりの報告数は増加し、昨年の同時期と比較してやや多い傾向にあります

定点把握感染症

「A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 増加」

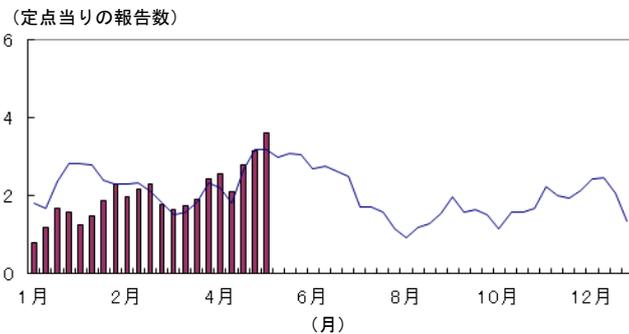
第 21 週は前週比 8.5%増の 3,480 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、咽頭結膜熱、突発性発しんの順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 8.1、3.6、2.3、1.1、0.6 であった。

感染性胃腸炎は前週比 4%増の 1,628 例で、南河内 13.9、泉州 13.7、中河内 10.5 の順である。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比 15%増の 722 例で、泉州 6.0、中河内 5.0、南河内 4.3、大阪市南部・三島 3.5 であった。

手足口病は 10%増の 454 例で、中河内 4.0、北河内 3.5、大阪市南部 3.2 と続く。咽頭結膜熱は 40%増の 223 例で、大阪市南部 2.2、三島 1.7、大阪市東部・北河内 1.5 であった。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎



咽頭結膜熱

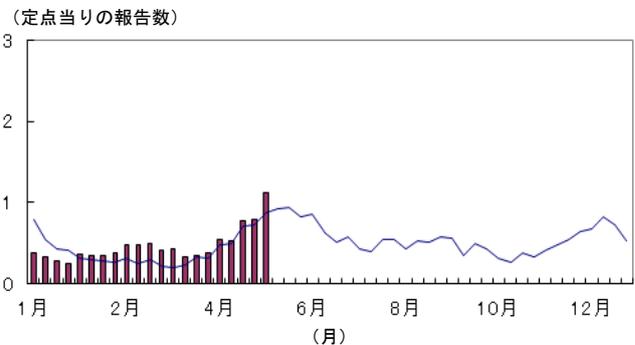


表. 大阪府小児科定点把握感染症の動向（2017（平成 29）年 第 21 週 5 月 22 日～5 月 28 日）

順位	第 20 週 の順位	感染症	2017 年 第 21 週の 定点あたり報告数	前週比 増減	2016 年 第 21 週の 定点あたり報告数	2017 年 第 21 週 の年齢別 患者発生数 最大割合値
1→	1	感染性胃腸炎	8.1	4%増	8.1	1 歳_18%
2→	2	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.6	15%増	3.2	5 歳_15%
3→	3	手足口病	2.3	10%増	0.3	1 歳_40%
4→	4	咽頭結膜熱	1.1	40%増	0.9	1 歳_38%
5→	5	突発性発しん	0.6	5%減	0.8	1 歳_54%

第 21 週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒の予防を徹底することが重要です

全数把握感染症

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の原因菌は、ベロ毒素を産生する大腸菌で、代表的なものはO(オー)157、O26、O111がある。汚染飲食物を介する経口感染がほとんどで、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群を起こす。3-5日の潜伏期において、激しい腹痛を伴う頻回の水様便の後に、血便となる（出血性大腸炎）。発熱は軽度で、多くは37℃台である。患者の6-7%では、発症数日後から2週間以内に、重症の溶血性尿毒症症候群が発症する場合がある。治療は、安静、水分の補給、抗菌薬、乳酸菌製剤の投与である。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[感染症の話\(国立感染症研究所\)](#)

(週別報告数)

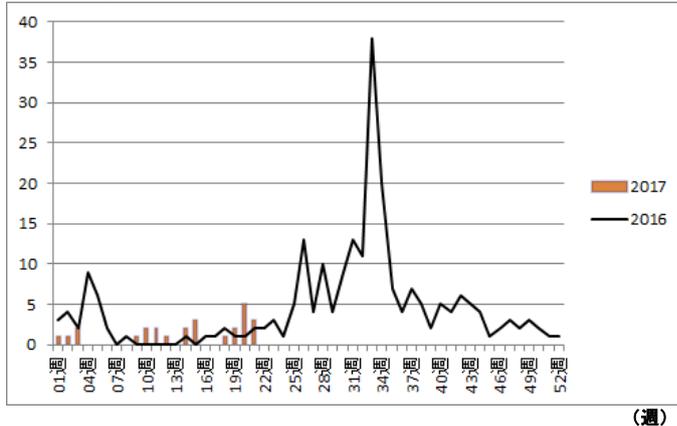


表. 大阪府全数報告数(2017(平成29)年 第21週 5月22日—5月28日)

*)注意: この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

1類感染症	報告はありません
2類感染症 (結核は除く)	報告はありません
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 3名(三島ブロック 1名、泉州ブロック 2名、府内累積報告数 26名)
4類感染症	A型肝炎 1名(南河内ブロック 1名、府内累積報告数 8名)
5類感染症 (麻疹、風しんは除く)	アメーバ赤痢 (豊能ブロック 1名、府内累積報告数 50名) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名(北河内ブロック 1名、府内累積報告数 49名) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1名(豊能ブロック 1名、府内累積報告数 13名) 後天性免疫不全症候群 1名(大阪市 1名、府内累積報告数 67名) 侵襲性インフルエンザ菌感染症 1名(泉州ブロック 1名、府内累積報告数 16名) 侵襲性肺炎球菌感染症 1名(豊能ブロック 1名、府内累積報告数 123名) 梅毒 13名(豊能ブロック 1名、三島ブロック 1名、大阪市 11名、府内累積報告数 255名)
結核(2017年3月分)	結核 新登録患者数:148名(内 肺・喀痰塗抹陽性 69名)
麻疹、風しん	報告はありません

(2017年5月30日 集計分)